

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



軽井沢で起きたスキーバス転落事故。安全性軽視、収益性・人手不足など背景には色んな問題が指摘されており、医療や研究にも教訓があるように思いました。さ～て、今回は大野記念病院の吉本 充先生と海外留学中の江里口 理恵子先生からメッセージをいただきました。

世話人・幹事からのメッセージ

「出会いは最悪だった透析療法」

大野記念病院 泌尿器科
吉本 充 先生

1982年に大学を卒業しすぐに生化学3の大学院と泌尿器科の医局に入局しました。当時の大阪市立大学泌尿器科は泌尿器科と透析を両輪としており両方の研修が必須でした。透析の研修に変わったその夜に、新たに受け持ちになった患者さんが心肺停止されて朝まで5時間心臓マッサージを行うも…。また別の患者さんでは右大腿部の透析用グラフト抜去術を行い出血量7Lに及ぶ大変な手術となりました。さらに臀部にある直径10センチ以上の石灰化した皮下腫瘍を摘出した患者さんには3か月間、開放創のガーゼ交換を行う毎日でした。その当時腹膜透析はCAPDではなくIPDで、週3回腹膜ボタンを外して腹腔内に細いチューブを挿入し1サイクル1時間で7～10サイクルのIPDを行っていました。某社のCAPD用透析バッグの治験も行っており、接続カテーテルと腹膜バッグの回路を繋いだあと感染防止のためアルコールランプに火をつけて接続部をあぶるという「びっくりポン」なこともしていました(翌年にトラベノール社がダイアニールを発売)。その後7年間透析と縁のない研究と仕事をしていたのですが25年前に今の大野記念病院に転勤となり臨床現場での悪戦苦闘が始まりました。当時は高リン血症よりもSHPTの管理が優先され、経口の活性型ビタミンDでパルス療法を行うもPTHは下がらず高Ca血症と高リン血症をきたして治療が中止になることもしばしばでした。高リン血症の治療薬はアルミゲルが禁止され炭酸カルシウムしかなくPのコントロールにも大変難渋しました。EBMが少なく学会で仕入れた治療を臨床現場に応用する時代でした。その後新しい治療薬やガイドライン、エビデンスが次々とでてきて、実診療現場の治療方針がその都度がらっと変わりましたが、今回のJ-DAVID試験でも活性型ビタミンDの心血管イベント発症抑制効果、さらには生命予後改善効果が立証され再び臨床の場に還元されることを祈念しております。



「日本からの研究の発信」

University of California Irvine
江里口 理恵子先生

2015年4月よりUniversity of California IrvineのKalantar-Zadeh教授のもとで臨床研究を学んでいます。外国に行くこと、日本のことをより意識するというのを耳にしていたのですが、その通りでした。日常生活において、私が感じたアメリカの良い点は同じコミュニティ、仕事場、学校などでは知らない者同士でも決まり文句のように挨拶をしますし、困ったことがあると、近くにいた人が助けてくれることはしばしばあり、挨拶や助け合いの精神は現代の日本に比べて、上回っている印象です。しかしながら、悪い点としては、銀行や電気・ガスなどの窓口の対応は不親切なことも多く、日本での丁寧さ、親切さの足元にも及びません。



医療に関しては、日本の透析医療が優れていることを改めて強く実感しています。これまでDOPPS研究などで、血管アクセス、貧血、骨ミネラル代謝異常、生命予後など、欧米諸国と日本との違いについて報告されてきました。日本の透析患者の死亡率が2000年9.2%、2013年9.8%に対し、アメリカの透析患者の死亡率はUSRDSのデータでは2000年19%でしたが、2013年には14%に減少しています。この十数年で医薬品も増え、治療の選択肢も増えているとは思いますが、透析時間の再考、シャント造設の増加など生命予後を改善しようという取り組みの成果もあるのだと思います。日本から研究を発信することで、現在の治療について見直し、医療の変革が起こり、日本だけでなく、世界の患者さんの生命予後の改善に繋がっていくのだと思います。私たちが日本の透析の現場で、色々と考えながら、コツコツと実践していることを報告することの重要性を痛感しています。

J-DAVID試験という素晴らしい研究に少しでも参加させていただいたことを大変光栄に思いますし、ビタミンDが長寿ホルモンであることの有効性についての検証の結果が世界へ発信される日を心待ちにしています。



最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(1月26日現在)

症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	938	924	880	845	805	749	691	657	621
今月 (前月比)	976	938 (-)	924 (-)	880 (-)	845 (-)	805 (-)	766 (+17)	719 (+28)	685 (+28)	649 (+28)

内容確認書(クエリー)回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE (イベント含む)	総数
発行	1137	816	656	664	639	580	590	468	420	463	1690	212	32	256	8623
回収	1137	808	648	653	623	560	567	447	400	426	1599	206	30	253	8357
回収率 (%)	100.0	99.0	98.8	98.3	97.5	96.6	96.1	95.5	95.2	92.0	94.6	97.2	93.8	98.8	96.9

J-DAVID事務局からのお知らせ



共同研究費(2015年分)のお支払について

「共同研究費 振込請求書(2015年分)」を各ご施設のJ-DAVIDご担当者(代表者)様宛てにご郵送いたしました。ご請求締切は**2月末日(必着)**です。お手続き方法などは「振込請求書」に同封の案内書をご覧ください。確認の上、3月末日までに口座振込にて送金いたします。ご請求がない場合は、お支払いができない場合がございます。なお、算定単位数が「0」の場合は請求書の返送は不要です。

次回のイベント評価委員会について

次回第15回・第16回イベント評価委員会を5月13日(金)、14日(土)の2日間で大阪市立大学医学部において開催を予定しています。報告された重篤な有害事象(イベント報告含む)の評価をします。重篤な有害事象(イベント報告含む)をまだご報告されていないものがありましたらご提出お願いいたします。ご協力よろしくお願いたします。

最近の文献から

25(OH)D正常レベルはCKD小児の蛋白尿低値と腎不全への進行遅延と関連する

Normal 25-Hydroxyvitamin D Levels Are Associated with Less Proteinuria and Attenuate Renal Failure Progression in Children with CKD

Shroff R, et al. N Am Soc Nephrol 27: 314-22, 2016

【ポイント】CKD小児にACEiを用いて血圧介入したESCAPE試験のpost-hoc解析。対象は167人のCKD小児。ベースラインの血清25(OH)D濃度は蛋白尿の程度と逆相関した。25(OH)D濃度はDBP濃度とは関連しなかった。ACEi投与後Kotchoレベルが上昇した。血清25(OH)D濃度は5年間の観察期間における腎生存率とも関連したが、ACEi治療を考慮すると関連は弱まった。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26069294>

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ
<http://j-david.info/>